

平成 27 年度 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 京都府

【学校名】 井手町立井手小学校

実践1

【目標・ねらい】

各国の料理及び我が国の伝統的な料理を給食で提供するとともに、給食時間の放送や掲示物の展示等により、オリンピック・パラリンピックが開催された国々の食文化を知る。

【実践の内容】

- ・ 12月初旬の1週間、各教室で6つの国の資料（国旗・人口・首都・言語 食文化・スポーツ等）を掲示し、アンケートにより、給食週間（1月24日～30日）で提供する献立を決定。
- ・ 本年度は、中国・イタリア・日本・メキシコ・スペインの献立で実施。
- ・ オリパラ給食に関連した話を、町内小学校の朝礼で栄養職員が実施。
- ・ 放送委員会の児童生徒による給食時の放送の実施。

【実践の成果】

児童・生徒の感想より

- ・ スペイン料理が一番おいしかった。世界の給食が好きになりました。
- ・ 世界の料理をもっと食べたいし、もっと世界の料理を知りたい。
- ・ 世界の料理もおいしいけど、和食が一番だと思います。世界にも和食を知ってほしい。

実践2

【目標・ねらい】

オリンピック・パラリンピックに関する掲示を通して、スポーツへの関心を高め、運動に親しみ自ら進んでスポーツに取り組む意識を育てる。

【実践の内容】

- ・ オリンピック・パラリンピックの掲示板の設置
- ・ オリンピック・パラリンピックの歴史や実施種目・開催国についての資料の掲示
- ・ 身近なオリンピア・パラリンピアの紹介コーナーの設置

【実践の成果】

- ・ 掲示により、オリンピック・パラリンピックに関する関心を高めることができた。
- ・ 身近なオリンピアン・パラリンピアンを知ることから、競技に関する関心が高まった。
- ・ オリンピック・パラリンピックの歴史について学ぶことができた。

実践3

【目標・ねらい】

- ・ パラリンピックや車椅子バスケットボールへの興味・関心を高める。
- ・ 障がいのある人の生活の様子や願いがわかる。
- ・ 障がいのある人と共に、同じ社会に生きている人間として、自分たちの接し方やできることを考え、自分も前向きに生きようとする意欲を持つことができる。

【実践の内容】

- ① 事前指導 (KYOTO UPSの紹介等)
- ② 選手との出会い (講演、実技指導、競技体験)
 - ・ 1校時は、全校(講演)
 - ・ 2～4校時は、2学年合同で実施(実技指導、競技体験)
- ③ 事後指導

【実践の成果】

- ・ 競技体験では、シュートが決まるたびに大きな歓声が上がするなど盛り上がり、パラリンピックの種目をより身近に感じる事ができた。
- ・ ゲストティーチャー自身の体験を生で聞くことで、困難に負けず努力することの大切さを実感することができた。

実践4

【目標・ねらい】

- ・ オリンピアンとの出会いの中で、さあやってみようという「スポーツごころ」を育てる。
- ・ 一流の指導の中で、自身の記録に挑戦することによって、自信・希望を持って何事にも積極的にチャレンジできる心情を育てる。

【実践の内容】

- ① 事前アンケート
事前指導活躍を収めたDVDの活用
- ② オリンピアンとの出会い（山口有希氏）
実技指導、競技解説、昼食時の交流、表彰、講評
- ③ 事後アンケート・事後指導

【実践の成果】

- ・ 興味・関心やスポーツごころに関するアンケート結果では、よく当てはまると答えた児童の割合が増加した。特に「目標を持ってチャレンジすることは大切である」は、80%の児童がよく当てはまると回答した。
- ・ 山口選手の講評の中で、自身の5年生の記録よりも早いと言われた児童は、大変自信になり、夢を大きくふくらませた。
- ・ 感想文には、「教えてもらったことを意識して走ったら、早く走れてうれしかった」「目標を持って努力することが大切だと思った」「運動が苦手で嫌いだったけど少しずつ走るのが好きになった。」等が多く見られ、交流の成果が見られた。